NEWS CIT
ニュースシーアイティ
2021 12.15

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016　千葉県習志野市津田沼
２丁目17番１号
TEL 047(478)0222　FAX 047(478)3344
https://www.it-chiba.ac.jp/

毎月１回（８月を除く）15日発行

技術で躍進する本学へ

産学懇 期待の482社 参加

質の高い学生を獲得しようと詰めかけた企業担当者＝ホテルニューオータニ幕張で

本学が企業と親睦を深め、学生の就職について情報交換を行う「産学懇談会」が11月11日、千葉市のホテルニューオータニ幕張で開かれ、482社の人事・採用担当者が参加した。コロナ禍で昨年の産学懇談会が中止となったこともあり、ブランド力の向上著しい千葉工大生への期待が一段と高まっていることが示された。

産学懇談会は、第1部・講演会、第2部・名刺交換会の2部構成で行われた。本学からは瀬戸熊修理事長、松井孝典学長をはじめ、教職員らが総出で企業の人事・採用担当者らに対応した。

松井学長は冒頭のあいさつで、本学が今春の入学試験で10万人を超える志願者を集め、全国の大学の中で近畿大に次ぐ第2位の志願者数だったことを紹介。一方、卒業後の就職については2020年度、96・9％の就職率となり、学科にかかわらず、毎年高い就職率を維持し続けていることを報告した。

本学の研究活動については、はやぶさ2が20年12月、成功裏に試料を地球に持ち帰ったことを挙げ「はやぶさ2の成功を支えたのは本学惑星探査研究センターの研究員たち。千葉工大抜きに、はやぶさ2の成功はなかったと自負している」と研究成果を強調した。

また、現代社会の現状について「人類は感染症や地球温暖化、エネルギー供給といった問題を科学技術で克服し、技術的に文明を発展させていかねばならない」と強調。「その鍵を握るのは技術革新。千葉工業大学は世界文化に技術で貢献するというのが建学の精神。その精神に基づいて、社会に技術革新という新しい知の流れを生み出し、広げていくのが本学の使命」との認識を示した。

一方で教育方針については「学生の目線に立ち、学生の身に寄り添い、来たるべき時代に技術革新を担えるよう、必要な実践力を学生が身につけることができるよう日々学内の改革を教員と職員が一丸となって実行していく」と述べ、「採用では本学の学生をよろしくお願いいたします」と締めくくった。

コロナ後の社会

山極壽一・京大名誉教授が講演

第一部では、総合地球環境学研究所長で京都大名誉教授（元総長）・本学特別教授の山極壽一氏が「コミュニケーションの進化とコロナ後の社会」と題して講演。山極氏はアフリカでのゴリラの生態研究を踏まえて「人間は脳が大きくなった結果、言葉を発明。言葉を得たことで信頼できる仲間を増やし、社会関係を持てる規模の集団を作って進化してきた」と語った。

その上で、78億人という人口増や温暖化といった地球環境の限界の問題の一方、デジタル情報革命に人間の心や身体がついていけない状況に陥っており「グレーターリセットが必要」と強調。ポスト・コロナ禍を見据えて「考え直さなければならないのは命と命のつながりであり、文化の多様性に目を向けること。それこそがSDGs（持続可能な開発目標）に必要」と述べた。最後に、大学教育について「大学は公共財。教育とは贈与。直接的な利益を求めず、社会や世界に開かれた新しいコミュニティーにならなければならない」との持論を展開した。

一方、第2部では企業と本学の各学部・学科の就職担当教員との間で名刺交換会が行われた。各学科のブースの前には企業の参加者らが長い列を作った。企業が求める学生の所属学科（専攻）が多岐にわたり、業種の垣根を越えて広がりつつあることを背景に、名刺交換を通じて熱心な質疑応答が交わされた。

上杉千佳部長（就職・進路支援部）は「企業の採用意欲は継続していますが、新型コロナの影響でインターンシップや採用活動が軒並みオンライン化され、就職環境は大きく変化しました。この流れは、これからも続くと考えられます。就職環境が変化しても、学生たちが就職活動をするうえで自ら情報を取りに行くことの重要性は変わりません。ぜひ、自ら行動を起こし、業界、企業の情報収集に臨んでください」と学生へ発信している。

名刺交換会に並ぶ企業の担当者たち

3年度 推薦入試が終了

令和3年度総合型（創造）選抜が10月16、17日に、また、学校推薦型選抜（公募制・専門高校）、特別選抜、編入学選抜が11月28日に行われた。

10月から11月にかけて▽総合型（創造）選抜▽学校推薦型選抜（指定校制・帰国生徒指定校制）▽学校推薦型選抜（公募制・専門高校）▽特別選抜（外国人留学生・帰国生徒・社会人）▽編入学選抜▽編入学選抜（指定校制・高等専門学校）――と、順次行ってきた。

新型コロナウイルスの感染拡大から、学校推薦型選抜（指定校制・帰国生徒指定校制）は昨年に続いて出願時に小論文を提出し、面接は免除。学校推薦型選抜（公募制・専門高校）では、津田沼キャンパスのほかにサテライト会場を札幌、仙台、名古屋、大阪、福岡の5カ所に設け、読解力テストとともに、津田沼会場の担当教員とオンラインで面接を実施し、遠方の学生に配慮した。

今年度の推薦系志願者数総数は1454人。編入学選抜の試験志願者数は65人となった

★★ 希望のゴールドカラー

津田沼キャンパス5号館裏のヒマラヤ杉がクリスマスのイルミネーションを装い＝**写真**、11月15日から点灯した。新型コロナ下、人々に希望を贈りたい、と今年は基調色をホワイトからゴールドカラーに変え、温かみのあるツリーとなった。

高さ約25㍍のツリーには1万6千球の電飾が飾られ、外周に本学キャラクターのチバニーを配置。学内関係者や習志野市民、沿線の乗客たちを励ましている（消費電力約1200㍗は太陽光発電で賄っている）。

ニュースガイド

２面　全日本大学空手男子団体形で３位／戸田さん学生優秀発表賞／角さんＹＳＰ優秀論文発表賞／中村研チームが優秀賞
３面　佐藤研３人の撮像が電気学会誌の表紙飾る／坂本教授ら次世代型核酸医薬開発へ／秋の袖団ウィーク再開／３氏を教育功労者表彰
４面　寮の球技大会／第72回津田沼祭／新任紹介

男子団体〈形〉

全日本大学空手道選手権

清水主将、堀さん、福田さん　3位入賞の快挙

㊤表彰式で（左から）堀さん、清水さん、福田さん
㊨形を極める3人

大学空手の日本一を決める第65回全日本大学空手道選手権大会（11月21日、東京・九段の日本武道館で開催）で、本学体育会空手道部（清水拓馬主将ら15人）の清水主将（プロジェクトマネジメント〈PM〉学科4年）、堀颯拳さん、福田麻斗さん（ともに同3年）ら3人が出場した男子団体〈形〉で3位に入賞した。この大会はレベルが高く、理工系大学の上位入賞は異例で、大会関係者も驚く快挙となった。

昨年の大会は新型コロナ禍で中止に。今回は感染防止対策をとったうえで無観客で行われ、試合の様子は全日本学生空手道連盟によりYoutubeでライブ配信された（https://www.youtube.com/channel/UCuRYr09nQrX1cAzqobl2ohw）。

大会には全国約230の加盟校中、所属する8地区1団体の予選を勝ち抜いた代表（形は14校）が出場し、男女の形・組手4種目が行われた。本学は全日本理工科系学生空手道連盟代表（1枠）として出場した。

3位という戦績を、部OB会長の真崎伸一さん（昭和58年、建築学科卒）は「自分の知る限り近年、全国大会での理工系単科大の入賞は記憶にない。素晴らしい結果が出せた」と拍手を送った。

空手名門大の多くはスポーツ推薦や、インターハイでのスカウトで選手を集めている。清水主将は全国高校選抜大会で優勝した経歴はあるが、千葉工大にスポーツ推薦はなく、強い選手は他大学へ行くのが普通。

本学で入部した部員たちには当然、学業が優先された。新型コロナのため思うように稽古できない期間もあったが、普段の学業をこなし、研究を進め、空手の時間を生み出しては、長い日には朝7時～夜9時まで稽古を重ねた。

出場大学は、〈形〉では帝京大が優勝12回を誇り、同志社大は18年に優勝するなど上位常連校がひしめいている。

本学の3人は、会場に到着後、コートに入るギリギリまで体を温め、技を極めるイメージをした。緊張してテンポが速くならないよう、技の正確さや動きのズレなど細かい部分を何回も練習したという。本番では3人の呼吸がきれいに合い、同評価の国士舘大と3位を分け合った。

★3人の話

清水さん　学生生活最後の空手で結果を残せたことは誇りです。高校以来の後輩2人と団体を組め、感謝しかありません。大舞台でしたが緊張より楽しくて仕方なかった。このチームで3位という結果は自分にとってうれしく思います。

堀さん　自分の空手人生に何か一つ成果を残せたことがとにかくうれしい。高校時代は補欠で過ごし、大学では必ず勝ちたいという想いを胸に、稽古してきました。試合後、観客席に戻る際、清水主将からそっと拳でタッチしてもらえたことが印象的でした。

福田さん　清水先輩と最後に結果を残せ、頑張ってきてよかったと思えました。指導してくださった根本敬介先輩（平成15年PM学科卒、全日本空手道選手権で複数回優勝、日本空手協会師範）方に、とても感謝しています。

■〈形〉男子団体　優勝・帝京大（2連覇）▽準優勝・同志社大▽3位・千葉工業大（清水、堀、福田）／国士舘大

オペラ歌手の声道を分析

戸田さん学生優秀発表賞

日本音響学会は2021年秋季研究発表会（9月7～9日、オンライン開催）を対象に選ぶ第23回学生優秀発表賞をこのほど、「オペラ歌唱における音高と声道形状に関する検討」を発表した戸田菜月さん（知能メディア工学専攻修士1年、竹本浩典研究室＝写真）に贈った。

竹本研では、音声の生成過程を研究。戸田さんは、医療機器であるMRIを用いて、歌唱中の横隔膜や声道形状がどのように制御されているかを分析している。

受賞研究は、プロのオペラ歌手とオペラを学ぶ学生の協力を得て、大きく音高が変化する曲を歌唱中の声道形状の変化を動画で記録。この動画から機械学習を用いて声道形状の輪郭を抽出した。

その結果、高音を歌唱するときには頚椎を後弯（こうわん）させて喉頭軟骨の枠組みを利用していることが分かった。このしくみは従来知られていなかった。また、後弯の度合いはプロでは音高に応じて徐々に増大するが、学生では最高音のみ急激に増大するなどの違いがあり、歌唱技術の習熟度と関係あることが示唆された。

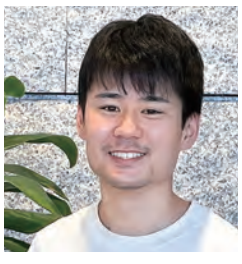
Zoomの限られた発表時間で音楽用語の説明も必要。知らなかった頃の自分に説明するつもりで資料を作ったという。

学生優秀発表賞は、音響学会の春季・秋季の発表会で優秀な発表を行った学生会員に贈られる。今回秋季では24人が選ばれた。戸田さんは「私が受賞？と、信じられないような気持ち。同時に、とてもうれしく思っています。竹本教授と研究室の皆さん、支えてくれる家族のおかげです。感謝を忘れず、更に努力していきたい」と語った。

電子回路の新たな評価手法

角さん YSP優秀論文発表賞

電気学会の2021年産業応用部門大会（8月25～27日、新潟県長岡市のニューオータニ長岡とオンラインとのハイブリッド開催）で、角真輝（すみまさき）さん（機械電子工学専攻修士2年、佐藤宣夫研究室＝写真）が「降圧型フライバックコンバータの電流経路可視化」を発表し、YSP優秀論文発表賞を受賞した。



電流回路の劣化や故障は航空機などの大事故の原因にもなる。回路や素子の状態を評価する非破壊解析手法には、ロックイン赤外線発熱解析やX線CT、超音波検査などがあるが、それぞれに問題があるといい、非破壊による新たな電子回路評価手法が望まれている。

角さんらは、比較的大電力で、故障すると発火が見込まれる電源回路を対象に、半導体部品の磁場計測で電流経路の可視化を狙った。

佐藤研では、電磁場の逆解析理論を用いて磁場発生源近傍の磁場分布を再構成し、電流経路を算出するサブサーフェス磁気イメージングと電流経路可視化技術がある。だが性能は磁気センサーに大きく依存する。

例えば、今回実験に使用した磁気センサーの周波数帯域（上限）は1キロヘルツ程度で、スイッチング電源のように内部電流が数百キロヘルツ～数メガヘルツである回路の電流経路を磁場計測して可視化するのは困難だ。

そこで角さんらは、パワー半導体デバイスの非線形出力特性に着眼し、高解像度で収録された信号を低解像度に変換するダウンコンバート法を利用すれば、高周波駆動する内部電流経路を既存の磁気センサーのまま計測できることを示した。

角さんは「受賞を誇らしく、うれしく思います。佐藤教授と後輩たち、両親の厚い支援の賜物で、一人で成し遂げたことではありません。厚く御礼申し上げます」と、感謝を記した文を寄せた。

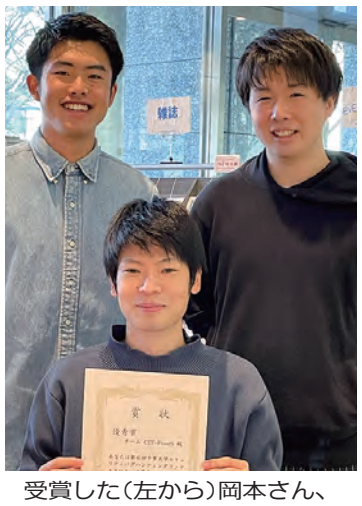
サイトの脆弱性見つけよ！

中村研チームが優秀賞

サイバー攻撃に対し、優れたセキュリティー能力を持つ人材を育てようと開かれる第6回千葉大学セキュリティバグハンティングコンテストが8月3～9月20日、参加チームがオンデマンド授業を受ける形で開かれ、本学情報ネットワーク学科・中村直人研究室の釼持祥希（しょうき）さん、新海龍二さん、岡本昇（しょう）さん（以上3年）らのCIT-FourSチームが2位に相当する優秀賞を獲得した。11月16日、千葉大で受賞式が行われた。

コンテストは、セキュリティーに関わるバグや脆弱性を発見した人に報奨金を支払う「セキュリティーバグ報奨金制度（Bug Bounty Program）」をモデルに、研修を受けた学生たちが対象を調べ、問題あり、と発見する腕を競う。

主催者運営のウェブサイトや指定されたウェブサイトのセキュリティー上の脆弱性を調査し、リポートを作成する形で行われた。



受賞した（左から）岡本さん、新海さん、釼持さん

初の参加で、やり方が見えず、受講内容を手掛かりに悪戦苦闘した。コロナ禍で、チームも対面では集まれず、コミュニケーションに苦労。しかし、オンラインミーティングやクラウドストレージを駆使して知識を共有し、次第に連携してバグハンティングに取り組めたという。

チームの1人・岡本さんは「情報セキュリティーの重要性が叫ばれる中、（受賞は）この先の人生に大きな意味をもつと考えます。自信にもつながり、一層勉学に励もうと思えました」と語った。

電気学会誌の表紙を飾る

■佐藤研3人の電流経路撮像

133年の歴史がある電気学会の学会誌10月号表紙に、本学・佐藤宣夫研究室の角真輝（すみまさき）さん（機械電子工学専攻修士2年＝**2面・YSP優秀論文発表賞の記事参照**）、田村知孝（ともゆき）さん、鶴岡智彦さん（同1年）の3人が知恵を絞って撮像した電流経路像8枚が掲載された。

電気学会は1888（明治21）年に創立。現在2万人近くいる会員に配布され、研究の最新事情を伝えている。10月号は交流を直流に変えるパワーコンバータの諸問題を列挙しており、テーマに最適、と3人の成果が表紙を飾った。

撮像は、角さんらが「パワーコンバータ用電流経路可視化技術」の論文で使ったもの。絶縁型フライバックコンバータと、コッククロフトウォルトン回路と呼ばれる電源回路の動作状態の内部電流経路を映し出した。

前者は、電気機器では一般的な回路でスマートフォンの充電器などに使われている。後者は、受動素子のみを使った簡単な回路ながら、数キロボルトを超える高い昇圧比を実現した電源回路。

佐藤研では、磁場分布計測によって、電流経路を非破壊で遠方から可視化する技術を持ち、内部劣化箇所の特定、故障の判断、設計指針の向上などに役立てている。

今回、撮像した絶縁型フライバックコンバータは高周波駆動する回路で、通常帯域を超える高周波磁場の観測は困難を極めたという。

初めは回路自体の駆動周波数を下げて計測したが、通常時の動作を観測したことにはならない。そこで高周波位相計測技術として通信分野で使われていたダウンコンバート法を、本回路に備わる半導体素子の非線形出力特性に適用して、磁気センサーの周波数特性の課題を克服した。

2種類の回路を設計製作し、計測の3つのパートを3人で担った。角さんは、研究室で学生対学生、対教授、対外部のコミュニケーション機会が充実しているおかげで成果を挙げられたといい、「鶴岡君・田村君の協力で実った成果ですが、先輩、後輩と佐藤教授の支援があってこそ」。

鶴岡さんは「佐藤研の成果を報告できて大変喜ばしく思います。日々の両親の支援にも感謝したい」。田村さんは「電源回路の設計に携わって、新たな評価方法を確立できたことを佐藤教授、先輩、同輩に感謝します」と語った。

佐藤研の（左から）角さん、鶴岡さん、田村さん

次世代型核酸医薬 開発が始動

■坂本教授ら11機関

東京理科大（和田猛・生命創薬科学科教授）を総代表に千葉工大（坂本泰一・生命科学科教授＝**写真**）、東京医科歯科大、東京大の4研究機関は、革新的な次世代核酸医薬を開発するため、国立研究開発法人日本医療研究開発機構と委託契約を結び、「INGOTプロジェクト」をスタートさせた。

10月25日、報道陣に公表した。INGOTは、従来の核酸医薬よりも生体内で優れた安定性・有効性を示し、副作用も低減された革新的な次世代型核酸医薬を表す。英語名「Innovative Next Generation of Oligonucleotide Therapeutics」の頭文字をとった。

核酸医薬とは、化学合成されたDNAやRNA誘導体からなる医薬で、疾病に関連するDNA、RNAおよびタンパク質を標的とする。従来は治療不可能だった疾病にも有効な薬を生み出すことができ、世界的に開発が進められている。

利点は作用機序が明確で副作用が少ないこと。一方で、生体内での安定性や標的へ確実に届ける技術、生産コストなど課題も多い。4研究機関には一般財団法人バイオインダストリー協会と関連6企業が加わり、全11機関で製造・精製・分析技術の3課題を分担し合って開発、産業化し、高性能・安全な医薬を患者に届けることを目指す。

坂本教授は、東京大の鈴木健夫講師（大学院・化学生命工学専攻）とともに、新規製造技術の評価と、合成した新規モノマーやオリゴマーの高度な分離・分析を可能にする分析技術を開発する。

特に、光学異性体を制御した核酸の分離・分析法を確立し、精密質量分析と核磁気共鳴装置（NMR）を駆使して構造決定法や純度検定法、立体化学の最適化手法の開発を行う。

今回の大型プロジェクトは、産学連携で産業化へ実現性の高い体制を構築した点が大きな特徴。代表の東京理科大では、プロジェクトのために野田キャンパス（千葉県野田市山崎）に先端的な「集中研」（仮称）を設置し、最先端機器や実験環境を集中させる計画という。

〝秋の袖団ウィーク〟再開

■田島研などが催し

習志野市の袖ヶ浦団地で11月13、14の2日間、「秋の袖団ウィークエンド～団地の魅力を発見しよう～Discover My SodegaURa」が開かれ、団地を活性化する参加型イベントを、多くの住民が楽しんだ。

建築学科の田島則行准教授、都市環境工学科の鎌田元弘教授、磯野綾助教の3研究室とUR都市機構が主催した。習志野市と2014年から進めている「袖ヶ浦団地活性化プロジェクト」の一環だが、昨年はコロナ禍で中止に。今回、田島研を中心に、まちづくり活動を再開させた。主な催しは次の通り。

▼**コミュニティ・ライブラリー＝写真㊤** 団地住民たちから本を寄付してもらい、田島研が作った本棚と一緒に展示するコーナー。多くの本が寄付され、訪れた人々が本を手に取り、本を介して会話が生まれるなど、住民間、住民と学生の間の新たなコミュニティーの場となった。

▼**アクティビティ調査報告** 鎌田研・磯野研とUR都市機構が共同で実施した団地の公園・広場・商店街の使われ方調査について速報版を報告。来場者に聞き取り調査を行った。

▼**ストリートファニチャー＝同㊦** 団地内で使えるよう田島研が作った「ストリート・ファニチャー」を体験してもらい、可能性を探るコーナー。子供たちが紙飛行機を折り、家具の上で飛ばしたり、椅子を自由に組み合わせて遊んだり、活気あふれる場となった。大人たちも休憩スペースに利用し、高評価をもらった。

▼**スペースハンティング** 団地内のさまざまな空間や魅力を、学生が撮影した写真を通じて考えるコーナー。見物に訪れた人々と、団地の未来について多くの意見交換ができたという。

▼**コミュニティシンポジウム** 〝JoinSpot袖ケ浦〟でゲストに森田芳郎・東京工芸大教授、河野直・合同会社つみき設計施工社代表を迎え、田島准教授を司会役に、地域コミュニティーの活性化について意見交換。地域との関わり方や団地再生の取り組みなどを考え直す機会となった。

▼**手芸ワークショップ** 本学同好会の手芸倶楽部が鎌田研有志の呼びかけで今年度から参加。ペットボトルビーズの腕輪づくりを伝授した。

会場ではこのほか、京成バラ園芸㈱や地域関連会社が各種催しを展開して、にぎわった。

田島准教授は「多くの方々に来てもらい、今後の袖ヶ浦団地の可能性を考える貴重な時間をいただきました。準備や製作に協力してもらった皆さんにも心から感謝します」とコメントした。

3氏を教育功労者表彰

福山氏

河村氏

倉田氏

教育功労者として、総務部（情報システム）の福山達也グループ長と河村俊一係長、教学センター（新習志野教務担当）の倉田幸恵グループ長補佐の3人が12月4日、千葉県私学教育振興財団から表彰された。

福山グループ長は平成11年4月に入職以来、電気工学の知識を生かし、電気電子工学科の助手、研究員、技術職員として業務を遂行。特に本学の情報システムの基盤を築き、事務システムの統合と情報セキュリティー対策の強化を図っている。

河村係長は、平成9年4月に勤務以来、職務に精励。専門分野の情報システムに携わり、現在は技術職員として的確に業務を遂行。本学の演習室の運営や情報ネットワーク管理に貢献している。

倉田グループ長補佐は平成6年4月に勤務以来、国際交流課、入試広報課、新習志野教務課を歴任。本学の国際交流に積極的に取り組み、海外大学との協定事務や留学生の受け入れに尽力。周囲からの信頼が厚い。

サイトで『再会』

第72回 津田沼祭

「第72回津田沼祭」（実行委員長・留守（とめもり）めぐみさん＝生命科学科4年）は11月20、21日、新型コロナウイルス感染防止のため、昨年に続いてオンライン方式で開催された。

サイト画面でも対面時のように楽しい時間を過ごしてもらおう……。テーマは「再会」。大学祭の場で学内関係者・地域の人々が出会えるよう願った。

今年は4企画配信

実行委は今年、次の4企画を用意した。

①ちびっこてづくり教室②e-sports大会～スマブラ杯～③ロボットコンテスト④ビンゴ大会。

①は、小学校低学年向けに、家庭にあるものを使う工作を2つ紹介。「ビュンビュンごま」「ポンポンだいこ」の作り方を、動画で学生が分かりやすく手ほどきして好評だった。

昨年の津田沼祭で盛り上がった②のe-sports。今年は人気ゲーム『大乱闘スマッシュブラザーズSPECIAL』を使い、16人の強者が最強を極める戦いに挑んだ。実況をリアルタイムで配信した。

③は2年ぶりに復活し今年で第25回。「ブロック運び」で制限時間内に障害物を越えて何個のブロックを集められたかを競った。各ロボットの機体や操縦者の熱い思いも画面で届けた。

④は「simple bingo」「YouTube Live」「Zoom」を使ったオンラインビンゴ大会。大学祭の思い出に、と多くの参加者が集まった。

このほかサークルや部活、研究室の成果を動画で発表した。

実行委員長の留守さんは「72年もの歴史ある津田沼祭で皆様と再会できてうれしく思います。新しい手法、アイデアで生まれ変わった大学祭を多くの方に体験してもらえれば幸いです」と感謝の言葉を述べた。

ロボットコンテストの画面。右のチャットには続々と反響が……

ちびっこてづくり教室の動画収録風景

寮で久々、球技大会

朝には避難訓練も

学生寮（樋田海都・寮長＝情報通信システム工学科3年）の球技大会が11月6日、新習志野キャンパス体育館とフットサルコートなどで開催された＝写真㊤。

寮友会の1人・高雄千陽さん（都市環境工学科2年）を企画委員長に、テニスやバスケットボール、バドミントン、フットサル、ドッヂボールの5種目が用意され、寮生と教職員約120人が久々に、すがすがしい汗を流した。

新型コロナ下なので、寮友会メンバーたちは安全に開催できる方法を、と各種目で互いの距離を考えながら準備。最も参加者が多かったのはバスケットボールで選手が攻守を素早く切り替えて激しい勢いを見せると、にぎやかな応援が体育館いっぱいに広がった。

寮長の樋田さんは「久々の大型企画に参加者が多く集まり、安心しました。私は参加者、企画運営の両方で楽しむことができました」と語っていた。

◇

学生寮では球技大会前の9時から9時半に、地震に襲われ火災が発生したとの想定で防火防災・避難訓練が行われた＝写真。

寮の防災設備を施工した機器メーカー担当者が講評役を兼ねて立ち会った。230人を超す寮生が短時間でスムーズに避難できたことに対し、「日ごろの信頼関係やリーダーの指導が発揮された結果で、素晴らしいです」と賛辞を贈った。

新任紹介

青山（あおやま） 拓海（たくみ）

（総務部付　事務職員）

一日の始まりから心地良いあいさつをし合える風土がとても印象強く感じています。先輩方の業務を見習い一日でも早く戦力となり、学生と大学の力になれるように努力していきます。

（敬称略）

同窓会

寒さが身に染みる季節となりました。若い時には寒さをこんなにも感じることはなかったのにと思う日々が続いています。

思えば子供の頃、寒い日でも半ズボンを穿（は）いて足を真っ赤にしながら寒さに耐えて小学校に登校している自分がいました。今考えますとよく耐えられたなと自分のことながら少し感心します。私だけでなく他にも同じような服装の同級生がたくさんおりましたが、最近はそのような服装をしている小学生を全く見かけません。これはファッション感覚の違いでしょうか？ 時代を感じます。

小学校にあがる前の私はよく体調を崩し、週に一回医者にかかっておりましたが、小学校高学年の頃には健康体となっていました。冬の半ズボンの影響があったのでしょうか？ 寒くても母親に与えられた服装をそのまま着ていた私ですが、耐えて丈夫になってほしいとの願いがあったのかもしれません。医学的には間違っているのかもしれませんが……。

この経験を思い出し、生きていく上で耐えることも必要なことだと思う今日この頃です。

機械工学科　植草　昌彦

四季雑感

2年振りの「対面型」オープンキャンパス（OC）が無事に終了した。コロナ禍でWEBOC、バーチャルOC…など、いろいろなOCが全国で展開され、いつの間にかOCの頭に何が付くかで開催形式の判断が必要になっていた。今回は人数制限を設け、完全予約制とし、予定していた300組は予約開始とともに埋まった。

久しぶりの実施に準備を含め終始緊張していた。終わる頃には日が落ち、風が冷たい12月OC特有の片づけはどこか懐かしさすら感じた。全行程終了と同時に胸を撫でおろしたが、予約が埋まってしまい参加ができなかった高校生がいたと思うと、心に引っかかるものがあり手放しで喜ぶこともできなかった。

一度目の緊急事態宣言後、WEBOCや動画配信など、代替案の試行錯誤を繰り返し、形にはなってきていたが、やはり教員や学生とコミュニケーションをとりキャンパスの雰囲気を含め、大学を肌で感じ、体験をしてもらいたいのが本音だ。

つまるところ来年こそは制限の無い本来のオープンキャンパスを実施できる情勢になっていてほしい！

入試広報部　海老根　克磨

編集だより

冬の夜空を彩る「ふたご座流星群」が12月13日夜から15日の明け方にかけて、出現のピークを迎える。

好条件がそろえば、1時間に数十個ほどの流れ星が見られそうだ！というニュースに、東京では無理かな？と思いつつ、犬の散歩のついでに、なるべく暗がりの橋の上で夜空を見上げてみた。

最初は数少ない星々たち、目が慣れてくる15分後くらいには、意外にも多くの星が瞬き、東京でも見えるもんだな…と驚いた。娘と旦那と「あっ」とか、「わーっ」などと騒ぎながら5つもの流れ星を見つけることができた。意外に感動（笑）。

遠い昔、地元で夜中に一人、軽トラックに寝ころび「しし座流星群」を眺めたことがある。1時間に1000個ほどの流星が!? そんなばかな！と思いながら参戦したのだが、当時の私は、嘘のような本当の出来事に目をキラキラさせてはしゃいでいた覚えがある。

ただ、未だに流れ星が消えるまでにお願いごとを3回言う…は、実現できていない。残念。

入試広報部　大橋　慶子

12月25日（土）後期・秋学期授業最終日、26日（日）冬期休業開始（1月10日まで）、1月10日（月）成人の日、11日（火）授業開始